

令和元年度 総合技術監理部門（上下水道一下水道）口頭試験

試験日：令和2年1月中旬（試験時間：約20分）

場 所：フォーラム8

面接官：2名（終始なごやかな雰囲気であった。）

受験者：自治体職員（役職は係長。下水処理場の維持管理業務の経歴が長い。）

Q. 経歴3分、業務詳細3分で説明してください。（雑談なく開始）

A. 経 歴：経歴書に記載できなかった経歴も含め記載内容に沿って説明。

業務詳細：当初提出したものを見直した結果、総監視点では情報管理が課題だったと訂正して、それに対する管理内容を説明。

（業務詳細が技術的な課題解決策になっていて、総監技術で管理できていない点を模擬面接の時に指摘してもらい、本番までに改善した。）

Q. 下水処理場における危機管理の取組について説明してください。

A. 地震に対する事業継続計画（BCP）を例に挙げて、それに対する管理内容を説明。

（上手く答えられなかったが、突っ込まれることはなかった）

Q. 地震などで下水処理場の機械・電気設備が壊れた場合、メーカーによる対応が必要になると想定されますが、何か協力体制は取っていますか？

A. 下水道施設業協会と災害時の支援協定を締結しています。

労力の確保では他都市との支援協定もあります。（この回答は特に不要だったかも。）

Q. 下水処理場で水質基準違反があった場合、どのような対応を行いますか？

A. 有害物質が流入してきた想定で回答。

下水処理場での水質管理（品質管理と社会環境管理）が優先事項であると説明。

それに対する管理内容を説明。

（危機管理の取組は、地震などの自然災害ではなく、こちらの話が本命だったのかも。）

Q. 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策は知っていますか。

もし、予算があったら、何をしたいですか？

A. 近年の降雨強度が強まっていることから、10年確率降雨に対する整備を進める必要があります。（5年確率降雨に対しては90%以上の整備率がある。）

Q. 部下の育成はどう考えていますか？

A. 計画、設計・建設、維持管理と幅広い業務を経験するので、ゼネラリストの育成が必要と考えています。

OJT、OFF-JT、自己研鑽によって育成を行っています。

令和元年度 総合技術監理部門（上下水道—下水道）口頭試験

Q. 組織内に資格取得に対する方針などはありますか？

（前述の回答で自己研鑽では資格取得を進めていると回答したためと思われる）

A. 技術士や電気主任技術者などの資格試験に合格したら、受験料を補助してもらえる制度があります。

Q. 故障対応は事後保全の対応となるが、予防保全との関係性は？

（経歴の中で、予防保全を重視した設備管理を実施したと説明。また、業務詳細で故障情報の管理を改善したと説明したので、それに関する質問と思われる。）

A. 重要な設備（例：主ポンプ）は時間計画保全で予防保全しています。

納期が長く高額な部品の取替を計画的に実施しています。

故障の再発や他の設備で同様の故障が発生しないように、保全することで、予防保全につなげます。

Q. 故障情報の入力に対して何かインセンティブを与えましたか？

A. 取組を所属の目標とした理念的インセンティブを与えました。

Q. （経歴書の中で一番古い業務について）電力削減の要因分析を実施した理由は？

A. 電力は、下水処理場の維持管理費の3-4割を占めています。

電力の削減要因を分析・把握して、更なる電力の削減につなげるためです。

以上で試験を終わります。